

陸送協会ニュース

第 **198** 号

2025 年 3 月

編集・発行者

一般社団法人日本陸送協会事務局

東京都港区海岸1丁目9番18号

国際浜松町ビル 6 階

電話 03-6803-4171



**令和6年度通常総会並びに
協会創立60周年記念式典開催される**
令和7年2月20日(木)に品川プリンスホテルに於いて、全国から113会員の皆様に出席いただき、令和6年度通常総会並びに創立60周年記念式典が開催されました。

令和6年度通常総会

1 開会の辞 島田専務理事

令和6年度通常総会開会の辞

2 会長挨拶 北村会長



北村会長

皆さん、こんにちは。

本日は、一般社団法人日本陸送協会通常総会に、多数、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。開会に先立ちまして、本部を代表して、ご挨拶を申し上げます。

昨年は、元旦早々に能登半島地震が発生し、8月末までに240日を超える自衛隊の災害派遣活動が行われる等、復旧作業が進む最中、9月には、台風14号の影響による能登半島豪雨が発生し、再び多くの方々が避難生活を余儀なくされました。

温暖化に伴う異常気象と言われて久しいですが、歴史的な猛暑や局地的な集中豪雨は、陸送事業者にとっても厳しい環境下で

の作業となり、夏場の熱中症対策から冬場の豪雪対策まで、これまで以上の健康管理と運行管理の必要性が求められた一年だったと思います。

又、昨年は、選挙の年でもありました。

衆議院選挙では、自民・公明の連立与党が過半数割れの大惨敗で、30年ぶりの少数与党となりました。一方、米国大統領選挙では、ドナルド・トランプ氏が勝利し、米国ファーストに向けて動き出しました。強いアメリカへの回帰を狙うトランプ政権に対して、政局が不安定な日本が、どのように新しい日米関係を築いていくのか、特に、自動車産業に大きく影響を与えかねない、通商交渉が注目されております。

日本陸送協会は、本年、創立60周年を迎えます。昨年4月に、トラックドライバーの改善基準告示が改正され、日本政府が取りまとめた「物流革新政策パッケージ」は、「物流2024年問題」への対応として、広く、荷主や元請け事業者から物流施設運営事業者に至るまで、物流効率化の推進や環境整備に向けた「改正物流法」が成立しました。

この法改正は、昨年の本部総会でご紹介した「陸送版2024年問題への取組み」を後押しする法律であり、長年の「商慣行」を見直す絶好の機会と捉えております。現在、新車・中古車の流通において、乗務員の負担を下げる可能性のある「商慣行の見直し」の整理をしておりますが、本日は、その一例をご紹介させて頂き、会員各社の皆さまのご理解と考察を深めて頂きたいと思っております。

まず始めに、昨年の国内自動車市場を振り返ってみます。

このグラフは、コロナウイルス感染症以前の

2019年から昨年までの国内の新車の総販売台数の推移を示したのになります。

ここ数年、コロナウィルス感染症の拡大に伴う、生産調整や納期調整が継続していた国内新車総市場ですが、昨年は、半導体不足からは解放されたものの、年初からの新車の型式認証関係の混乱により、出荷停止を余儀なくされ、更には、新しい保安基準への切り替えが遅れたこともあり、2024年1月～12月の国内新車総市場は、対前年7.5%減少の約442万台となりました。これは、直近20年間で、コロナ禍に伴う半導体不足の影響を受けた2022年、そして、東日本大震災の2011年に次ぐ低い水準となりました。

その内登録車の販売台数については、前年対比5.6%減少の約286万台と300万台を下回る結果となりました。認証関係の影響を最も受けた軽自動車の販売台数は、対前年10.7%減少の約156万台となり、過去25年で最も低い水準となりました。

一方、中古車流通市場は、新車販売の低迷に伴う下取り車の減少による玉不足は、オークション相場の上昇を招き、国内市場は減少したものの、円安を背景に、中古車輸出が、約160万台水準と堅調に推移した結果、国内・輸出を合わせた流通合計は、約650万台と前年並みの水準となりました。

新車販売は、国内の景気動向や中古車の需要の強弱を判断する指標となるので、消費マインドが、コロナ禍でのクルマの購買意欲から、旅行やレジャーにシフトする動きがある中で、新車出荷の混乱が解消された本年の新車販売の動向が注目されています。

それではここで、「陸送版2024年間

題への取組み」の進捗状況と「改正物流法に向けた活動」をご紹介させて頂きます。

まず、行政への規制緩和や運用ルールの変更についてありますが、現場で最も要望のある規制緩和は、単車のオーバーハングであります。12mトラックは、日本固有のトラック規格であり、特車申請の範疇ではありません。従って、今後の商用車の電動化の推進に伴って、13mトラックの新規格の可能性について、自工会や車体工業会、そして、トラック協会と共に検討していきたいと考えております。

次に、ETC専用化への対応について、ポータブル化に向けての協議を続けておりますが、サポートレーンへの進入手続きの簡素化や料金処理の早期化という要望に加えて、ポータブル化に伴う多頻度割引の適用という2つの要望が背景にあります。手続きの簡素化、早期化については、サポートレーンに、ETCカードや免許証の専用読み取り機を設置する方向で動いております。又、料金割引については、ポータブル化を含めて、継続検討となっております。

そして、長年、懸案となっていた中古車の内航船舶積み時の線量検査については、日本中古車輸出業協同組合と共同で、日本港運協会や経済産業省、国土交通省に対して、検査廃止の要請をしてまいりました。経産省は、本件は、「風評払拭・リスクコミュニケーション」の推進に資する取り組みにあたるとして、昨年末に、大阪、名古屋、横浜において、説明会が開催されました。

本年に入り、先月末に、国交省港湾局長名で、日本港運協会宛てに、港湾における中古自動車等に関する放射線検査の取り扱いに対して、適切に対応するよう「周知依

頼」が出されました。陸送協会としても、適切な措置が講じられることを強く期待しております。

次に、「改正物流法に向けた活動」をご紹介させて頂きます。

まず、流通業務総合効率化法、通称「新・物効法」についてですが、今まで、当たり前のように行われてきた商慣行を見直すことにより、乗務員の負担を軽減していくことを目的としています。すなわち、「物流に携わる」、或いは、「物流に係る」全ての事業者に対して、物流の改善・効率化に向けた努力義務を課す法律となります。

このスライドは、新車流通における「荷主」の努力義務を考察したものととなります。荷主には、新車のオフライン工場を始め、納整センター、架装工場などといったクルマを出す「出荷側の発荷主」と販売会社のようなクルマ受け取る「受け取り側の着荷主」があり、その努力義務は異なります。

「出荷側」へのお願いは、出荷計画、船積計画、そして納整計画の一貫性と計画の精度の向上、更には、何かしらの要因で出荷が遅れた場合、輸送力に沿った挽回計画や滞留場所の確保などがあげられます。

そして、「受取側」へのお願としては、繁閑差の是正に取組んでもらいたいと思っております。年間を通じて、9月や3月の決算期の繁忙は、やむを得ないが、月末集中登録による月内の繁閑差や、納整センターと販売会社の休日設定が異なることから、週内で発生する繁閑差への対応を求めたいと思います。

例えば、オフタイムデリバリーと言われる店舗への時間外の納車や、納車先の環境改善、そして自走納車などが考えられます。

長年の懸案である「路上の荷扱い問題」なども、商慣行の見直しという法改正の中で、販売会社毎の納車先店舗の集約や業界をあげてのハブヤードの設置など、今後の自動車産業政策の中に、組み入れていくよう、自工会、自販連と連携していかなければならないと感じています。

このスライドは、オークション会場の搬出入輸送において、オークション関連事業者の努力義務の考察となります。上段がオークション会場への搬入ですが、主な荷主はメーカー系の販売会社や中古車専業者であり、荷主の努力義務は、オークション出品車両の点検、カギ管理、化粧プレート外し、構内移動などの出荷前の準備作業となります。

下段が、オークションからの搬出ですが、オークション事業者へのお願としては、搬出期限やクレーム期限の延長、オークション構内作業環境の改善であり、そして、新しい荷主となる落札者へのお願は、方面別に荷量を確保するための納期設定などとなります。

現在、輸送サービス別に、一品一葉で、各事業者の努力義務を整理していますが、各協会・業界団体に対して、商慣行の見直し内容の可能性について意見交換を行い、その後、各事業者と元請け事業者や実運送事業者が個別折衝していくのが、合理的なプロセスではないかと考えています。

改正物流法のもう一つの柱が、貨物自動車運送事業法、通称改正トラック法になります。トラック事業者の取引に関する規定として、「元請け事業者や利用運送事業者」と「実輸送事業者」の下請け多重構造に対して、管理体制の強化や適正な運賃体系を整備する法律であります。

これは、陸送協会の重点活動である「安全の確立」と「輸送秩序の確立」にも関連するものであり、協会内での意思統一を図って、進めていきたいと思えます。

以上が、「陸送版2024年問題への取り組み」の進捗状況と「改正物流法に向けた活動」のご紹介となりますが、創立60周年を迎える本年を、「陸送革新元年」と位置付け、活動を推進していく思いを申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

ご清聴、誠に、ありがとうございます。

3 議長選出 北村会長



石田副会長

北村会長に議長の選出が一任され、定款第15条の規定により石田副会長が議長に選出された。

4 開会宣言及び議事録署名人の指名

(1) 議長から定款第18条1項の規定で定める総会の定足数について、会員総数695会員(うち正会員500会員)、本日の出席者113



柴崎理事(右)、磯部理事(左)

会員(うち正会員91会員)、委任状提出292会員で、正会員出席者数、委任状提出者数の合計383会員となり、正会員総数の過半数を超え、総会が成立する旨報告があった。

5 議案審議

第1号議案

(1) 令和6年度事業報告

資料に基づき島田専務理事より下記の事業活動の報告がなされた。

I 事業活動

1. 「令和6年度日本陸送協会短・中期活動計画」に基づく活動推進

① 「教育・認定制度」の推進

② 陸送事業者の実態把握と関係先への理解活動

1) 陸送事業概況調査

2) 積載車路上積み降ろし作業問題の解決

3) 高速道路入口のETC専用化に対する取り組み

③ 支部活動の支援・充実

④ 交通事故抑止、環境保全に関する機器等の導入

⑤ コンプライアンス体制の確立

⑥ 協会創立60周年記念式典開催準備

2. 渉外・広報活動の推進

3. 安全の確立

4. 輸送機器、輸送システムの改良等の推進

5. 会員数及び陸送事業の統計(実態調査による)

II 組織運営

1. 本部総会及び支部総会の実施報告

2. 理事会の実施報告

3. 正副会長会議及び委員会等の実施報告

4. 本部事務所等の移転

(2)



島田専務理事

続いて、島田専務理事より令和6年度決算について、収支計算書、貸借対照表、正味財産増減計算書等の報告並びに令和6年度決算書(1月1日～12月31日)についての報告があった。

(3) 令和6年度会計監査報告



細谷監事

細谷監事より会計監査を令和7年1月22日(水)実施した結果、本協会の業務及び財産の状況並びに事業報告及び決算について、適切に処理されている旨報告があった。

議長は、第1号議案の議決について諮ったところ、令和6年度事業報告、令和6年度決算報告、会計監査報告は原案通り満場異議なく承認された旨報告。

第2号議案

(1) 役員の改選

議長は、役員の一部改選が行われる旨報告。

退任理事3名を紹介

・大河原 正喜 理事

・加藤 拓弥 理事

・鶴 雅之 理事

(2) 新役員紹介

新任理事3名を紹介

・日浦 章博 理事

・日野 友貴 理事

・吉浦 知之 理事

本年度は、理事、監事全員が任期満了による改選期であり、理事22名、監事2名の計24名について議長から役員候補者名簿(案)に記載の名前を報告し、承認について諮ったところ、異議無く原案通り承認された。

第3号議案

(1) 令和7年度事業計画(案)

資料に基づき島田専務理事より説明があり、事業の遂行に当たっては、各支部と共に行政・関係団体との一層緊密な連携を図り、引き続き業界が抱える様々な課題解決に努めていくため、「安全の確立」、「輸送秩序の確立」、「経営環境の改善」など各々の事項を積極的に推進していく旨の説明があった。

(2) 令和7年度収支予算(案)

資料に基づき島田専務理事より説明があった。

議長は、第3号議案の令和7年度事

業計画（案）、令和7年度収支予算（案）についての議決について諮ったところ、満場異議なく原案通り承認された。

議長は、以上をもって本総会提出議案のすべてを審議頂き原案通り可決したことを報告し、全会員の協力に感謝して降壇した。

6 退任役員

鶴雅之理事への
感謝状、記念品授与

大河原理事と加藤理事は欠席の為、別途感謝状、記念品送付



鶴理事（右）

7 閉会の挨拶

島田専務理事

令和6年度通常総会の終了宣言。

創立60周年記念式典

日時 令和7年2月20日（木）
場所 品川プリンス メインタワー
34階「ルビー34」

2 会長挨拶

北村会長

皆さんこんにちは、お待たせしました北村でございます。本日は、日本陸送協会



北村会長



ご来賓出席者

60周年記念式典に多数のご出席頂きまして誠にありがとうございます。後程、ご来賓の方々一人ひとり紹介させて頂きますが現在通常国会開催中でありまして大変お忙しい中、国土交通省より鶴田物流・自動車局長が今、到着されました。ありがとうございます。更には2025年の春闘でリーダー的な役割を果たしてあります自動車総連より金子会長以下の方にお越し頂いており、誠にありがとうございます。

式典にあたりまして協会を代表してご挨拶を申し上げます。私がこの協会の会長を拝命したのが2019年でございます。10年前に創立50周年という式典が行われたわけですが、その際に会長職につかれたのがホンダロジステイクスの代表でありました永井前会長でありまして、今、豪雪の中、富山からお見えになりました。誠にありがとうございます。2019年というのは、実は私は日産自動車の出身でございます。この陸送協会ではホンダから日産に綺麗な形で会長職を譲って頂きました。

現在、メーカー間でギクシャクしている様でして何と申し上げたら良いのかよくわかりませんがよろしく願いたいと思います。2019年というのは、ご承知のように平成から令和に変わった年であり、平成元年というのはバブルの真最中で、この中にいらっしゃる大半の方が猛烈に働いていたのだと思います。24時間戦えますかというゲインのコーシヤル、これが年末の流行語大賞に選ばれた位であります。しかし、令和元年2019年は、働き方改革関連法が成立した年でやっと労働環境が大きく変わってきたわけですが、トラックドライバーについては5年間執行猶予がついて、これが物流2024年問題という社会現象になっていったのが昨年であります。本日ご来賓であります、国土交通省鶴田局長が、中心になりました物流革新緊急パッケージというものをまとめられ、この4月には改正物流法の施行となります。我々は公道を職場としております。それ故、国土交通省の管理監督下の元にあるわけですが、一方で車を生産会社から販売会社へと運びするという事で自動車産業の中にも属しているという物流業界の中でもユニークな業界であります。

今回の法改正の主旨、先ほど総会でも申し上げましたが、物流に携わるすべての事業者の方に、物流の効率化のために努力をして頂く、努力義務を果たして頂くというのが主旨となります。昨年策定しました陸送版2024年の取り組み

みを後押しする法律ということで大変期待している法律でございます。一つ例をあげると組み立て工場から販売会社にお車を届ける新車輸送に関しては、車を作っている会社が国土交通省の定義では発荷主で、販売会社は受ける方なので着荷主という言い方に。発荷主と着荷主では努力義務が違ってくる様なこととなります。現在、陸送協会の中では中古車・新車含めてすべての輸送サービスについて一品一葉でどういうことをお願いすれば良いのかという整理をしております。この整理ができた段階で一度意見交換する場を持たせて頂いて、その後という形で協力を頂くのかと個別にお話しできればと思います。

我々陸送協会は、本年60周年ということになります。陸送改革元年という位置づけとして活動を推進して参りますのでご来賓の皆様、そして会員各社の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。本日はご出席誠にありがとうございました。

2 来賓祝辞

国土交通省 物流・自動車局長
鶴田浩久様

皆さん、こんにちは、只今紹介頂きました

国土交通省
物流・自動車局長の鶴田で
ございます。

北村会長をはじめ、日本陸送協会の皆様方には日ごろから大変ご理解を賜りましてありがとうございます。



国土交通省 物流・自動車局長 鶴田浩久様

ございます。本日は60周年という事で大変おめでたい席に招いて頂きましてありがとうございます。予算委員会があり、少し予定より長引き、終わってすぐ駆け付けたのですが遅参しましたことをお詫び申し上げます。昭和40年に設立されたということで陸送業の適正な運営と公正な競争を推進される事を通じてこの陸送業界の健全な発展に多大な貢献をなさっておられると認識しております。先ほど会長からお話がありましたようにまさに60年の中には昭和から平成へ、平成から令和ということで、いろんな時代の節目、節目を象徴すると改めてそういう中で社会現象とおっしゃっていただきましたが、2024年問題ということで昨年は物流が国民の暮らしと経済を支えているという事が幅広い社会全体に認識が共有された年だったと思います。

それというのも日頃からの皆様方のたゆまぬ努力、日夜取り組んで頂いていることの現れだと思えます。まさに2024年問題これは2024年で何かが片付くという事でなく、まさに昨年からは始まりこれからずっと年々深めていかねばならぬという取り組みが始まったということだと思えます。今年4月からは、昨年の改正法、これは荷主さん、発の側、着の側、物流事業者との皆さんが協力をして効率化していくことで特にこの陸送の分野では非常に荷主さん方もいわゆる会社の垣根を超えるようなことも含めて積極的に取り組んで頂きたいとみんなで力を合わせてよりよい業界にしていこうという事だと思えます。我々も微力ではありますが、力を尽くしたいと思えます。結びになりますけど、日本陸送協会様のご発展

とここにいらっしゃる皆様方の益々のご健勝をお祈り申し上げましてそして新しい60年に向けての扉を開かれるということで明るいものになりますようにお祈り申し上げます。私からのお祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

3 功 労 者 表 彰

北村会長より、協会本部役員として当協会の発展に長年に亘り尽力を頂きました7名の方を表彰



水野副会長



九州支部 渡田事務局長

当協会の支部の事務局長として長年に亘り貢献された5名の事務局長を表彰

○本部役員表彰受賞者 7名

副会長	水野 功様	千代田運輸株式会社 社長
副会長	青木 信幸様	株式会社マルノウチ 会長
副会長	石田 聡彦様	愛知車輻輳行株式会社 社長
理事	永塚 秀幸様	北陸運送株式会社 社長
理事	鶴 雅之様	東洋陸送株式会社 社長
理事	磯部 芳治様	ふそう陸送株式会社 社長
監事	細谷 貞治様	細谷車体工業株式会社 社長

○事務局長表彰受賞者 5名

北海道支部事務局長	横井 康行様
中国支部事務局長	遠山 博明様
四国支部事務局長	柴田 陽平様
九州支部事務局長	渡田 高志様
本部事務局長	桑野 肇様

受賞者代表挨拶 水野副会長



水野副会長

只今功労者表彰を頂きまして誠にありがとうございます。又、ご来賓の方々お忙しい中、ご臨席賜りまして厚く御礼申し上げます。思い起こすと、44歳今から28年前に3代目の会長を務めさせて頂きまして、議長をされた石田さんのお父様と共に近畿支部の立ち上げに尽力したことを懐かしく思い出しております。当時、近畿運輸局で技術安全部長をされておりました和辻さん、つい最近までは自工会にいらっしやいましたが、和辻さんに招待状

を持って頂きましたところ条件が整っていないから出席できないと言われたことを懐かしく思い出しております。要は32社の内、30社ではダメだということで32社全部入った後に了解して頂きました。私は昭和62年から理事を務めさせて頂きましたが61年にサラリーマン生活から今の会社に戻りました。その時思ったことは、なんと物流業界とは弱い立場にあるのかなあということでした。それ以来、陸送協会並びにトラック協会の方でがんばろうということとで今まで勤続して参りました。私は昨年の2024年問題を契機にしてこれほど物流業界にフォロワーの風が吹いている時期を経験したことはありません。今日ご来賓の鶴田局長をはじめとした省庁の方々、公正取引委員会、経産省、我々に対してものすごくフォロワーの風を吹いていたのであります。特にトラック物流Gメンを初めとして様々な施策をして頂いております。これを生かすも殺すも我々次第だと思っております。先ほどの局長のご挨拶にもありました2024年問題これは取引正常化に向けた第一歩に過ぎないと私自身思っております。これからが本番という風に思っております。北村会長を中心にして陸送協会が一丸となつてこの難局を乗り切っていきたいと思っております。私も微力ながら尽力していきたいと思えます。本日に皆様方のご支援を心から感謝申し上げます。結びとなりますが、本日も列席の皆さんのご健勝とご多幸を祈念しお礼の言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

本部だより

令和7年1月正副会長会議

日時 令和7年1月15日（水）
15時00分～15時20分

場所 東京都トラック総合会館
6階会議室

議事

- (1) 令和6年度通常総会及び創立60周年記念式典等の議事進行等について
- (2) 令和6年度通常総会等について
- ① 令和6年度事業報告及び決算報告
- ② 令和7年度事業計画及び収支予算(案)
- ③ 令和6年度通常総会の議事進行等について



正副会長会議

- ④ 創立60周年記念式典次第及び受賞者名簿

- (3) 会費徴収規定に係る特別会員の変更について

- (4) 会員の入退会について

- (5) 令和7年度行事予定について

- 上記(1)～(5)の議題に関し、島田専務理事より別紙資料にて説明、承認された。

- (6) 令和7年度日本陸送協会 短・中期活動計画について

各事項について審議され承認された。

令和7年1月定例理事会

日時 令和7年1月15日（水）
15時20分～16時50分

場所 東京都トラック総合会館
6階会議室

議事

- (1) 令和6年度通常総会及び創立60周年記念式典等の議事進行等について

- (2) 令和6年度通常総会等について

- ① 令和6年度事業報告及び決算報告

- ② 令和7年度事業計画及び収支予算(案)

- ③ 令和6年度通常総会の議事進行等について

- ④ 創立60周年記念式典次第及び受賞者名簿

- (3) 会費徴収規定に係る特別会員の変更について

- (4) 会員の入退会について



定例理事会

- (5) 令和7年度行事予定について

- 上記(1)～(5)の議題に関し、島田専務理事より別紙資料にて説明、承認された。

- (6) 令和7年度日本陸送協会 短・中期活動計画について

- ・日本陸送協会 部会・委員会のワーキングからの報告

- ・桑野事務局長より別紙資料にて説明、了承された。

- (7) 支部報告について

各事項について審議され承認された。

令和7年2月臨時理事会

日時 令和7年2月20日（木）
14時00分～14時20分



臨時理事会

場所 品川プリンスホテル
メインタワー3階(りんどう)

議事

- (1) 令和6年度通常総会の議事次第他について

- (2) 役員の改選について

- ・令和7年度役員名簿

- ・理事・監事の「就任承諾書」の提出について

- (3) 日本陸送協会の会員の入退会について

- (4) 令和7年度行事予定について

- (5) 令和7年度日本陸送協会 短・中期活動計画について

- 部会・委員会のワーキングからの報告

- (6) その他

各事項について審議され承認された。

支
部
だ
よ
り

北海道支部

令和6年度定時総会・優良従事者表彰式・本部役員との意見交換会開催

開催日 令和7年1月27日(月)

会場 グランドメルキール札幌大通公園

北海道支部定時総会

本部より北村会長、青木副会長、島田専務理事、井上近畿支部長及び桑野本部事務局長が出席され、総会が開催された。舟橋支部長の挨拶に続き議題に入り、6年度事業報告、決算報告、会計監査報告、



令和6年度一般社団法人日本陸送協会北海道支部表彰式

7年度事業計画では「教育・認定制度」に基づく講習会の開催、「路上作業」問題解決に向けた取り組みなど5項目の重点項目のほか、収支予算案、役員補選案が提案され満場一致で承認された。

北村会長より「私たちを取り巻く環境」や「25年度協会重点施策」等についてご挨拶をいただいた。

優良従事者表彰式

優良従事者本部表彰者3名と北海道支部長表彰者26名の合計29名に表彰状及び記念品の授与が行われた。

北海道運輸局自動車技術安全部長 目谷要介様と北海道警察本部交通部管理官 藤原 学様より祝辞を頂いた。受賞者代表として優良従事者表彰の(株)ジー・ロジテック千葉耕一様から謝辞があり、記念写真撮影のあと懇親会が行われた。

本部役員・支部役員意見交換会

総会に先駆け本部から北村会長・青木副会長・島田専務理事・桑野事務局長と支部からは支部長他9名の役員と一般会員5社による意見交換会が開催された。

本部表彰者の紹介

(株)高正自動車陸送	木下 義和
ノーストランス(株)	菊地 一紀
北海道車輛運送(株)	西村 和也

九州支部

令和6年度通常総会・優良従事者表彰式・交通事故被害者家庭救済募金贈呈式・本部役員との意見交換会開催

開催日 令和6年2月28日(金)

会場 ホテル日航福岡

九州支部通常総会

本部より井上副会長、島田専務理事、桑野事務局長及び各支部より柴田四国支部長、大津中国支部副支部長が出席され、総会が開催された。鶴支部長の挨拶に続き議題に入り、令和6年度事業報告、決算報告、会計監査報告、令和7年度の新役員発表と挨拶、及び令和7年度事業計



画のほか、収支予算案が提案され満場一致で承認された。井上副会長より総会開催の祝辞、改正物流法施行や規制改革による陸送革新元年などについてご挨拶をいただいた。

優良従事者表彰式

優良従事者支部表彰13名の方々へ鶴支部長より表彰状が授与された。その後、優良従事者本部表彰4名の方々へ井上副会長より表彰状が授与された。

引続き、九州運輸局自動車技術安全部長 中富康宏様より祝辞を頂いた。

受賞者代表として(株)ゼロ・プラス九州の山中亮様が謝辞を述べられた。

交通事故被害者家庭救済募金贈呈式

鶴支部長より自動車事故対策機構福岡主管支所長の東浩基様へ募金総額422,929円の目録贈呈のち、(公財)交通遺児等育成基金より感謝状を拝受し、記念写真撮影のあと懇親会が行われた。

本部役員・支部役員意見交換会

総会に先駆け、本部から井上副会長、島田専務理事、桑野事務局長、九州支部からは支部長・副支部長他12名の役員による意見交換会が開催された。

表彰者の紹介

優良従事者本部表彰

株式会社ゼロ・プラス九州	山中 亮
株式会社ゼロ・プラス九州	大窪 慎司
吉浦運送株式会社	加賀潤一郎
吉浦運送株式会社	三次 竜也

優良従事者支部表彰

高陽輸送株式会社	毛利 兵吾
高陽輸送株式会社	湯村 一泰
高陽輸送株式会社	脇山 義光
株式会社ジー・ロジテック	安武 芳徳
株式会社ゼロ・プラス九州	橋本 翔平
株式会社ゼロ・プラス九州	伊藤 昌平
筑豊振興株式会社	小田 高寛
トヨタ輸送株式会社	小簿 幸二
トヨタ輸送株式会社	児嶋 修司
株式会社パルトランス	内尾 尚仁
吉浦運送株式会社	田川 寛
吉浦運送株式会社	中園 寛
株式会社ロジテム九州	森山 亮輔

四国支部

令和6年度四国支部通常総会・優良従事者表彰・本部との意見交換会

開催日 令和7年3月6日(木)
会場 ANAクラウンプラザホテル松山

四国支部総会が本部より北村会長、青木副会長、石田副会長、福井副会長、清水副会長、井上副会長、島田専務理事、東北・関東・中国・九州支部各支部長他、四国支部より柴田支部長、支部役員、事務局出席のもと開催されました。

柴田四国支部長の挨拶に続き議題に入り、令和6年度事業報告・決算報告・会計監査報告、令和7年度事業計画、収支予算案が提案され承認されました。

優良従事者表彰式

四国運輸局自動車技術安全部長明石様、

愛媛運輸支局長井出様、独立行政法人自動車事故対策機構愛媛支所長大澤様を来賓にお迎えし、北村会長より本部表彰受賞者1名、柴田支部長より支部表彰者6名に表彰状が授与されました。

優良従事者本部表彰

(株)MED香川支店

矢野 功史

優良従事者支部表彰

(株)ミナトエクスプレス	沼田 真志
(株)ミナトエクスプレス	三村 利行
愛知車輛興業(株)	来田 年弘
(株)ベスプロ	須田 江美
(株)ベスプロ	宮田 真司
(有)大豊陸送	高田 寿

本部との意見交換会



総会に先立ち、本部役員と支部役員との意見交換会が、本部より北村会長はじめ副会長および島田専務理事、四国支部より柴田支部長他支部役員の参加により行われました。

入退会情報

入会(3社)

中部支部 令和7年2月 三洋陸送(有)
四国支部 令和7年2月 (有)三光物流
中国支部 令和7年2月 (株)トランスウェブ広島営業所

退会(1社)

関東支部 令和7年2月 (合)階

経過・予定

経過報告

1/15 正副会長会議兼総務部会
1/15 1月定例理事会
1/27 北海道支部総会・優良従事者表彰式
2/20 2月臨時理事会
2/20 日本陸送協会 令和6年度通常総会
2/20 協会創立60周年記念式典

2/28 九州支部総会・優良従事者表彰式
3/6 四国支部総会・優良従事者表彰式

今後の予定

4/18 関東支部総会・優良従事者表彰式
5/21 中部支部総会・優良従事者表彰式
5/26 近畿支部総会・優良従事者表彰式
6/13 中国支部総会・優良従事者表彰式

会員の皆様へ

2025年春の全国交通安全運動について

日本陸送協会は2025年4月1日から4月30日までの1ヶ月間を交通安全強化月間と定め、自動車陸送事業における交通安全事故防止の徹底を図ることを目的に全国交通安全運動を実施します。

日本陸送協会ホームページについて

適宜改定しておりますのでご覧ください。

※会員専用ページ閲覧には下記のID・パスワードが必要です。

日本陸送協会ホームページURL <http://rikusoukyoukai.org/>

ID: 2016rikusou

PW: kyoukai

